

Zoom Up

人

順位はあまり意識していない
全国に通用するタイムを出すこと
それが僕の一歩の目標



高橋 知成 さん

●たかはし・ともなり 松尾中3年生。野球部・陸上部・スキー部の3つのクラブに所属し、趣味もスポーツと語る根っからのスポーツマン。スキー部部长、学校では生徒会執行部を務める。県中学校総合体育大会陸上競技男子共通3000m優勝のほか、県通信陸上競技岩手地区大会男子共通3000m優勝、県通信陸上競技大会男子共通3000m 3位入賞を果たす。「前向きな性格」と自己分析する。血液型O型のいて座。松尾奇木在住。



ト

ツプでゴールしても頭の中は悔しさでいっぱいだった。前日に行われた予選で出した9分3秒という自己ベストに10秒以上及ばない記録にうれしさはあまりなかったという。県中学校総合体育大会陸上競技男子共通3000m

0分10秒で優勝した知成さんはあくまでタイムに、記録にこだわっていた。もともと長距離走が得意で、走ることが好きな知成さんは、野球部に所属する傍ら特設クラブの陸上部、スキー部にも所属している。陸上部は特設クラブ故に他のクラブの支障とならないよう朝授業が始まる前に練習を行う。時間は限られているが、内容の濃い練習が特設クラブのハンディキャップを埋めている。今季は特にスピード強化の練習に取り組んだという。陸上競技では、大会ごと

に設定された参加標準記録の突破が上位大会出場のカギを握る。地区大会、県大会で優勝するだけでは、その上の大会には出場できない。今の自分に必要なのはスピード。やるべきことがはつきりと見えていた。全国中学校総合体育大会への出場も夢ではなかった。県中総体決勝当日のスタート前も、いつもどおりを心掛けた知成さん。自然体でいることが自分の力を出せる一番の方法であることを知っているからだ。レース中は全中の参加標準記録9分2秒を切ることだけを考えていた。序盤からツプを走ってはいしたが、1000mを過ぎたあたりからペースが落ちてきているのがわかった。疲れからか足が重くなり、そのままゴール。優勝したものの、参加標準記録を切るができず、悔しさが残る大会となった。今後は東北通信陸上大会への出場が決まっているほか、今季の公式大会の記録から、ジュニアオリンピックの出場権にも手が届いている。どんなときでも前向きでいられるという強い気持ちを武器に、記録という自己の限界を目指し、知成さんは今日も走り続ける。